

【最優秀賞】（北海道知事賞）

タイトル：優しい心

生徒氏名：井上比加璃

みなさんは、「いじめ」という深刻な問題について真剣に考えたことはありますか？

私は、それほど深く考えたことはありませんでした。自分が経験するまでは…。

小学校五年生の時のクラス替えで、今まで話したことがなかった人とも友達になることが出来ました。その中でも私は、四人の女の子の友達と親しくしていました。何をするのもいつも一緒。そんな関係が五年生、六年生とずっと続いていくだろうと思っていたし、もちろんこの時、六年生になってからいじめを受けるなんて、考えてもいませんでした。そして、六年生になり、私はいつものように仲のいい四人の友達とおしゃべりをしたくて行こうとしたのですが…。私は、気づいてしまったのです、友達の冷たい視線に…。それと同時に、私の悪口まで聞こえてきました。その瞬間、私は涙が出そうなほど悲しい気持ちになりました。それから、日が経つにつれて少しずつ避けられていることも感じました。こんな情態になって、明るく振舞うことのできる人などいるのでしょうか。私はこの時、どうしようもできずにいました。

しかし、担任の先生が私達の友達関係の異変に気づいていたらしく、先生と私を含んだ六人での話し合いの場を設けてくれました。話し合いの中では、お互いに嫌だと思っていたことを言い合ったので、友達が思っていたこともわかったし、自分が今までずっと言いたかったことも伝えることが出来たので、とても気持ちが楽になりました。そして、先生は「人の悪い所を見つける前に、自分の悪い所を直しなさい。」と言ってくれました。何げなく言ったその言葉が、私の心にすごく響きました。その話し合いがあったおかげで、友達とも仲直りをする事ができました。私が避けられていた理由は、自分では悪気がなくとっていた行動や言葉使いが原因で、相手にとっては、嫌なことだったのだと思います。

このような経験をしてから、私は「いじめ」というものについて、真剣に考えるようになりました。当然、いじめを受けるのには必ず理由があります。だからといって、いじめる必要があるのでしょうか。嫌なことがあるのなら、本人にはつきり言うべきだと思います。

ところで、みなさんは、「いじめている人」というのは、直接的に相手に嫌なことをする人だけのことだと思いますか？私は、そうは思いません。確かに、いじめを直接的にすることが一番悪いとは思いますが、その周りの「知らんぷり」、「見て見ぬふり」、「関係ない」などと思っていじめを止めようとしらない人

達も、充分「いじめている人」の中に含まれると思います。そして、このような行動をとっている人がいるから、なかなか「いじめ」がなくなるのではないのでしょうか。私は、このことに気づいてから、三つのことを心がけるようにしています。

まず、一つ目は、自分は関係ないなどという考えを持たずに、私に出来る事を見つけるということです。いじめを受けている人の立場に立って、自分がもし、相手にこんなことをされたらどんな気持ちになるかをしっかりと考えて、その人の気持ちを分かってあげることが大切だと思います。そして、その人のために何が出来るかを自分なりに見つけて、口だけではなく、行動に移していきたいです。

二つ目は、いじめに気づいてあげる事です。いじめている人は、その人のどんな所が嫌なのか。また、いじめられている人がどんな気持ちになっているのか。このように、お互いの気持ちに気づいてあげることは簡単なことではありませんが、いじめを経験した私にしかわからないこともきっとあると思います。

そして、三つ目は、人の良い所を見つけてあげることです。人間は、人に嫌なことをされると、その人の短所ばかり気にしてしまうところがあると思います。そして、その気持ちを誰かに分かってもらいたくてその人の悪口を言うことで「いじめ」が発生するのだと思います。そこで私は、人の悪い所を探すのではなく、人の良い所を見つけるようにしています。その人の一番良い所はどこなのかを見つけてあげることが出来れば、自然と優しい心を持って接することが出来るようになり、その人も認められたような気持ちになると思うからです。人は、一人で生きて行くことはできません。周りの人達の助けがあるから生きている、生かされているのだと思います。

人を認め、大切に作る心をすべての人が持つことが出来れば、「いじめ」はなくなっていくのではないかと、私は思います。